

国土審議会第26回北海道開発分科会 における主な意見

国土交通省北海道局

令和5年9月15日

●国土審議会第26回北海道開発分科会

日時：令和5年3月9日（木） 10:00～12:00

会議形式：WEB会議

計画全般

- この計画は、国として、閣議によって決定する計画であり、従ってその視点も、北海道が如何に我が国全体に貢献していくかにあると理解。北海道の新しい未来をともに作りたい。
- 「リアルとデジタルのハイブリッド」は北海道に非常にマッチしたものである。北海道が持つポテンシャルが発揮されるような計画が策定されることを期待している。
- 北海道もコロナで様々なダメージを受けたが、高まる食料安全保障や世界中にファンがいる観光の魅力を最大限に発揮して、北海道の魅力が多くの人に伝わる計画にしてほしい。
- リアルを支える人を北海道に連れてくる、或いは北海道から人を出さないためには仕事と教育が重要。その両方をオンラインで実施することによってリアルの良い人材、様々な産業を支える人材が充実していくということを打ち出してほしい。
- 北海道のポテンシャルや価値を、どう維持して、どう活かしていくのかを念頭におき、更に実効性のある計画にすべきであり、計画完成後は、具体的にどのように推進していくかが重要。

食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展

- 食料安全保障について、自給率だけでなくブランド力といった付加価値を更に高め、輸出を含めたマーケットの広がりも捉えながら食の高度化を図る必要がある。
- GIの活用等によるグローバル市場の獲得については良いことだと思う。自然環境や文化的景観はテロワールとも言われているが、このようなメリットも食文化を考える上で重要。

観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

- 食を生み出す自然環境や農業のような人の活動と自然が織りなす文化的景観を背景に、優れた食材が生まれ、そこに住む人たちが手をかけて、より付加価値を高めていくという関連性がある。文化、自然、環境の価値の保全、保護を行い、活用することによって新しい価値を創造・育成するサイクルが大事である。

地球温暖化対策を先導する活力あるゼロカーボン北海道の実現

- 新たな北海道総合開発計画において、食・観光に脱炭素化が新たな価値として加わったことは重要な視点。国を挙げて2050年カーボンニュートラルに向けた取組が進む中で、脱炭素化で北海道が国の課題解決に貢献できる。再生可能エネルギーによる電力を道内外に安定供給できるよう、北本連系など送電網の強化に取り組むことが重要。
- 北海道は再生可能エネルギーのポテンシャルが高いが、観光ポテンシャルの高い所で再エネ事業が実施される可能性がある。再生可能エネルギーの導入に当たっては、自然環境や観光資源としての景観を壊さず調和して進めることが大事。
- 「ゼロカーボン北海道」の取組が「骨太の方針」に明記されているが、脱炭素と経済・社会の活性化の好循環に向けては、北海道が中心的な役割を果たしていかなければならない。

地域の強みを活かした成長産業の形成

- 半導体メーカーのラピダスが、工場の建設予定地として千歳市を選定するとの発表があった。最先端半導体の中心的な拠点整備が円滑に進められるよう、国、道、地元自治体が密接に連携する必要がある。このような北海道開発に大きく関連する動向についても、計画に取り込んでいただきたい。

自然共生社会・循環型社会の形成

- 遊水地もグリーンインフラ。流域治水におけるグリーンインフラを活用しながら、有事の時は洪水を受け止めて安全安心な国土形成、平時はタンチョウが飛んできてインバウンド産業を盛り上げ、地域の自然環境が良くなり、住みやすい場所が作られるといった方向性を強く入れていただきたい。

北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興

- 北方領土隣接地域については、領土返還の拠点となる重要な地域であり、安定振興が図られていることが重要。
- 北海道はロシアと隣接しているので、国防の観点からも懸念している。国土の北縁で守るという意識を強く表現してはどうか。

アイヌ文化の振興等

- アイヌ文化のさらなる発展、新しいアートフォームとして、次の伝承すべき文化財になるような活動が展開され、ウポポイを中心に、様々な地域や人との連携拠点になってほしい。

北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成

- 北海道新幹線について、他の整備新幹線と異なり、県庁所在地と繋がって終わりではなく、北海道全体がすぐに繋がる訳ではない。整備した効果を最大限発揮することが重要である。
- 日本の食料基地である北海道は、全国各地に北海道産農畜産物を供給し続けなければならない。広大な北海道では、トラック・鉄道・船舶など、どの輸送手段が欠けても物流システムは維持できない。生産現場では将来的な北海道の鉄道体制に不安を抱えている。